

Untitled (BUY IT NOW)
2017
ネオン管、ガラス、スチール、変圧器、コード
157 x 100 x 35cm

Untitled (BUY IT NOW)
2017ネオン管、ガラス、スチール、変圧器、コード
157 x 100 x 35cm

Multidimensional

国谷 隆志 Kunitani Takashi

Gallery PARC [グランマールブル ギャラリー・パルク] では、2019年9月20日(金) から10月16日(日) まで、国谷隆志による個展「Multidimensional」を開催いたします。

美術家・国谷隆志(くにたに・たかし/1974年・京都生まれ)は、『人間の空間への関わりにおいて、自分を取り巻く世界、物事についてのあり方を問うこと、さらに人はそれらとどのように向き合うのか』に関心を寄せ、鑑賞者に身体(肉体・主体)の「位置」への自覚を促すことを主眼に表現を展開させてきました。

国谷はおもにオブジェや彫刻を中心としたインスタレーションを作品として、展示空間を「場」へと変換します。その「場」は内包する鑑賞者に働きかけ、そこに時間・空間・鑑賞者を分断、あるいは再構築させることを促します。また、近年のネオン管を用いた一連の作品は、光という現象による空間の変容だけでなく、文字を造形に、言葉を意味に解体・再構築する体験により、展示空間だけでなく、私たちの日常や社会構造をも「場」として眼差し、そこに内包される「私」という因子の座標や振る舞いに思考を巡らせるきっかけを与えてくれます。

本展「Multidimensional(=多次元)」は、3フロアにわたる展示空間のそれぞれを、2階をX軸(水平)、3階をZ軸(奥行き)、4階をY軸(垂直)への意識を促す場として構成しています。これらは私たちの三次元による認識を解体・再構築するように展開します。また、変化する外光には、それら空間に流れる時間の存在をも感じることができるでしょう。

しかし、私たちの認識し得る「場」は、こうした「三次元」「時間」といったものだけなのでしょうか。私たちはこれら比較的認識しやすい次元(dimension)を超えて、より多様で複雑な多次元の世界に生きているのかもしれませんが。また、その多次元は数学的な空間としてだけでなく、私たちの想像や記憶、感性の広がる空間にも及ぶかもしれません。

それぞれの次元の広がり眼差しを引き込む国谷の作品を眺める中で、私たちは未だ不可視の異なる次元に触れ、その存在を感じることが出来るのではないのでしょうか。



Untitled (NEVER LAND)

2018

ネオン管、プレキシガラス、スチール、変圧器、コード
29.9 x 50.2 x 24.4cm

本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。本リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上【info@galleryparc.com】迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

展覧会名 **Multidimensional**

出展作家 **国谷 隆志**

KUNITANI TAKASHI

<https://takashikunitani.com>

会 期 2019年9月20日[金] - 10月6日[日] 11:00~19:00

月曜日休廊 / 金曜日のみ20:00まで

*10月5日[土]は「ニュー・ブランシュKYOTO 2019」のため22:00まで開廊。

主 催 ギャラリー・パルク

料 金 無料

会 場 Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク] 〒604-8165 京都府 京都市 中京区 烏帽子屋町 502 2F~4F MAP

ア ク セ ス 地下鉄烏丸線「四条」駅・阪急京都線「烏丸」駅22・24番出口より徒歩7分。地下鉄烏丸線・地下鉄東西線「烏丸御池」駅より徒歩7分。
室町通・六角通 北東角 室町通側入り口より2Fへ

問 い 合 わ せ Gallery PARC (正木・村田・岡田) 〒604-8165 京都府 京都市 中京区 烏帽子屋町 502 2F~4F

TEL= 075-231-0706 FAX= 075-231-0703 MAIL= info@galleryparc.com HP= www.galleryparc.com



Untitled (NEVER LAND)

2018

ネオン管、プレキシグラス、スチール、変圧器、コード
29.9 x 50.2 x 24.4cm

[artist statement]

空間と私の距離

人間と空間は、深く複雑に絡み合った関係である。

空間というものの存在を考える上で、身体を抜きにすることは難しいだろう。それは、私たち人間の身体が常に空間の中に置かれているのと同じ時に空間を自らのものとすることによって環境を捉えているためだ。作品が身体感覚に働き掛ける時私たちは思考によってそれを把握し、統合する。作品は単なる物質として捉えられるのみではなく、場として身体の一部となる。それは論理や認識のレベルではなく、内面的な領域へと思考を拡大していくことである。

私は、私の作品が観客の意識の中で新たな意味や世界観を創り出す装置のような機能をはたすことができればよいと考えている。観客が作品によって示される空間に立ったとき、身体を通じて観客自身の意識の中に起こる出来事は主体的であるために客観性に欠け、あまりに不確かなものかもしれない。しかし、このような場の感覚によって、「身体が、今、ここにある」ということを強く自覚する事ができると私は考えている。私は、人間の空間への関わりにおいて、自分を取り巻く世界、物事についてのあり方を問うこと、さらに人はそれらとどのように向き合うのか、といったことに関心がある。人が占めている位置、身体、空間、時間、物の配置による人の視点や移動。これらは身体を起点とした観客自身の位置であり、場の感覚によって示されるものは、自らの存在を示すことに繋がる。作品の意味は観客の体験によって成立し、観客の参加そのものによって完成する。

あなたの存在と私の存在によって作品を完成へと導くことを、あなたの存在と私の存在の証明とする。

国谷 隆志

KUNITANI TAKASHI

1974.12 京都生まれ
1997.03 成安造形大学 立体造形クラス卒業

Solo Exhibition

- 2018.09 Spaceless Space (Uterior Gallery / ニューヨーク)
- 2018.03 Something Red (京都芸術センター 大広間 / 京都)
- 2017.04 Pink Objects (Uterior Gallery / ニューヨーク)
- 2016.12 Bai-in (松花堂庭園美術館 / 京都)
- 2015.11 Re- (OZASAHAYASHI / 京都)
- 2015.10 Channel 6, Deep Projection (兵庫県立美術館 / 兵庫)
- 2014.12 Momentary Shape (ART SPACE・NIJI / 京都)
- 2013.11 35°0' 31.7"N 135°45' 58.74"E (Gallery PARC / 京都)
- 2013.01 Shop Window (Street Gallery / 兵庫)
- 2012.11 make a mistake in choosing (Gallery PARC / 京都)
- 2012.10 two passages (京都芸術センター / 京都)
- 2011.10 PARC: Creator Support Project #2 MARS (Gallery PARC / 京都)
- 2008.07 Untitled Series (Contemporary And Spirits CAS / 大阪)
- 2007.12 The Vertical Horizon (大阪府立現代美術センター / 大阪)
- 2005.08 国谷隆志展 (Contemporary And Spirits CAS / 大阪)
- 2005.06 A piece of space: KUNITANI Takashi Exhibition (APS / 東京)
- 2004.11 Between Ground And Sky (YAEMON / 京都)
- 2004.06 What you have known for some time (ギャラリーココ / 京都)
- 2003.09 YOUR PRIVATE SURROUNDINGS (YAEMON / 京都)
- 2003.02 クリテリウム54 (水戸芸術館 / 茨城)
- 2003.01 Sparkle (ギャラリーココ / 京都)
- 2002.10 Nothing Like Object (ギャラリーそわか / 京都)

Group Exhibition

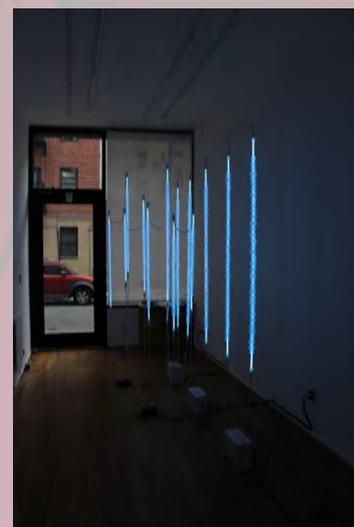
- 2019.01 Medium of Exchange (SHIRLEY FITERMAN ART CENTER (SFAC) at Borough of Manhattan Community College / ニューヨーク)
- 2017.09 ポスト・リビングルーム (SHIBUYA HIKARIE 8 / CUBE 1, 2, 3, / 東京)
- 2017.05 SEIAN ARTS ATTENTION VOL.9 UNCOVER (成安造形大学 / 滋賀)
- 2015.02 Light: fixtures and sculptures (LMAK gallery / ニューヨーク)
- 2014.10 twisted parallel code (Gallery PARC / 京都)
- 2014.08 COVER 3 (Contemporary And Spirits CAS / 大阪)
- 2013.10 SEIAN ARTS ATTENTION VOL.5 35°6' 29.15"N 135°54' 9.63"E (成安造形大学 / 滋賀)
- 2013.06 Pavilion 0 (Signum Foundation Palazzo Donà / ベニス)
- 2012.11 アブストラと12人の芸術家 (大同倉庫 / 京都)
- 2011.03 モトコーART train (神戸元町高架下通商店街 / 神戸)
- 2010.09 NEW WORKS「接続熱源」(ギャラリーほそかわ / 大阪)
- 2010.04 Food for the senses (海岸道ギャラリーCASO / 大阪)
- 2009.05 MASSIVE PROGRESSION (ギャラリーアーティストロング / 京都)
- 2008.11 LOCUS (神戸アートビレッジセンター / 神戸)
- 2008.07 Art Court Frontier 2008 #6 (アートコートギャラリー / 大阪)
- 2008.02 第11回 岡本太郎現代芸実賞 (岡本太郎美術館 / 川崎市)
- 2007.04 Curator's Eye 2007 (ギャラリーマロコエ / 京都)
- 2005.10 OMOTE - NASHI (YAEMON / 京都)
- 2005.10 City net Asia 2005 (ソウル市美術館 / 韓国)
- 2004.01 Premonition -S- (ギャラリーそわか / 京都)
- 2003.09 TAMA VIVANT 2003 (多摩美術大学 / 東京)
- 2003.05 NEW GENERATION 3 (海岸道ギャラリーCASO / 大阪)
- 2002.09 NEW TOWN ART TOWN (山陽団地 / 岡山)
- 2001.01 京都府美術工芸新鋭選抜展 2001新しい波 (京都文化博物館 / 京都)

Collections

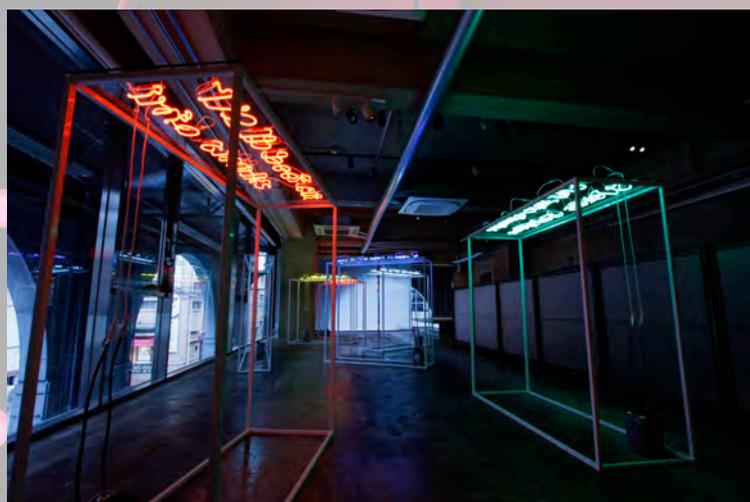
竹中工務店東京本店、日本ピラー工業株式会社



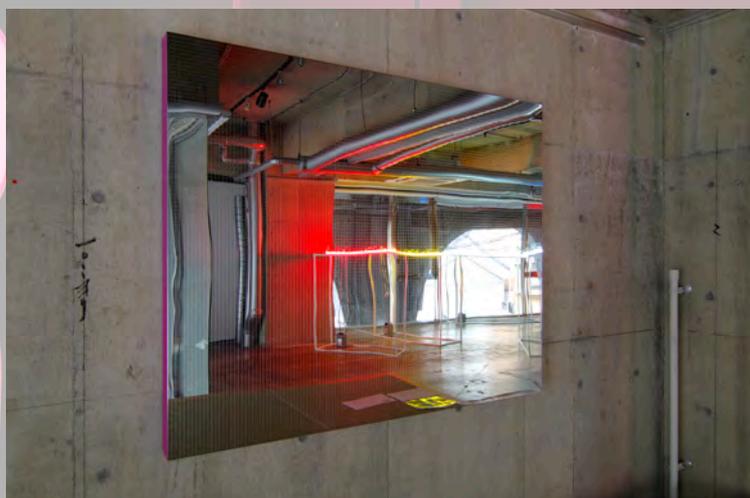
Untitled (UPSKIRT)
2016
ネオン管、ガラス、スチール、変圧器、コード
154 x 90 x 35cm



Spaceless Space 展示風景
2018
息、ガラス、アルゴン、変圧器、コード
サイズ可変



Untitled (Recipe #1)
2012
ネオンチューブ、変圧器、ガラス、鉄
サイズ可変



Mirror Site (14497)
2012
鏡面仕上げのステンレススティールに野書き、アクリル絵の具、パネル
109 x 133 x 7.5cm